



Trilingual Program

東京大学

2019 年度
TLP 修了式

式次第

2020 年 1 月 31 日（金）

於 駒場 I キャンパス KOMCEE East K011

18:00 開式の挨拶 前期 TLP 委員会委員長（齋藤渉教授）

18:05 副センター長（原和之教授） 挨拶

18:10 教養学部長（太田邦史教授） ご挨拶

18:20 修了証授与

18:30 修了生からの言葉

18:50 閉式の挨拶（齋藤渉教授）

つづいて記念撮影

中国語

各位来宾、老师、同学们，大家晚上好。我是川瀬翔子。我很高兴能够在今天的 TLP 结业式上和大家分享我的结业感言。

从 2018 年四月入学以来，我们 TLP 汉语班的同学们接受了高强度的汉语教育。我们既有中国老师，也有称得上“中国通”的日本老师，他们不仅教给我们中文知识，也给我们介绍语言里的中国文化。除了那些讨厌的大考小考之外，我们上课的每一天都很愉快。

今天，我想讲讲我在 TLP 学习的心得体会。首先我想说一说在大学学习第二外语有什么意义。

为什么在东大这样的综合性大学，第二外语是必修课呢？我感觉为了回答这个问题，我们需要对人的本质、即人是社会性动物这个事实进行思考。确实，语言只是传达信息的一种方法。反过来说，我们人之间的关联是由语言产生的，“人”这个字的构造就形象地表示出两个人互相支持、帮助的样子。在大学里跟朋友们聊聊天，无论是多么微不足道的小事，只因为交流中那一刹那的互通，就能让我在幸福的心情中度过一天里余下的时间。反之，如果我们被一句无情的话打击了，心情也可能会低落好几天。由语言构成的人和人的关联就是这个社会的全部，这个关联有着用金钱难以估量的价值。

前些天，我跟朋友讨论了我们应该怎样做才能实现世界和平、消除战争的问题。我们得出的结论是，如果全世界的人们都能“认识到别人都是跟自己一样的人”，并且能“想象他们怎么生活”的话，世界就能变得和平。虽然是理所当然的事情，但是我反省自己就会发现，这个“理所当然的事情”很难做到。比如说，我参加过去年春天的台湾研修和夏天的南京暑期项目。第一次看到台湾和南京的人们怎么生活，我才感到以前还只是书面知识的“台湾”和“南京”变成了生动而真实的世界。对我来说，对台湾的印象是城市里无处不在的绿色。从公寓的阳台到面向道路的房屋入口，到处都种着花和树。而在南京，一到晚上人们就聚集在湖畔和河边的公园，有的散步，有的拉二胡，有的吹笛子，有的唱卡拉 OK，还有很多人跳舞。早上也有很多跑步或在公园锻炼身体的人们，他们常常一边运动一边聊天儿。在现在的日本，我没见过像南京那样人们轻松地互相交流的情形。不过，中国的年轻一代以及忙碌的中年人参加这样的活动的并不多，所以我不知道这样的传统还会不会延续。虽然中国也和日本一样在现代化进程中人和人的关系变得疏远，但我希望中国人能继续维持人和人之间交流密切、联系牢固的社会。亲眼看到、亲身体会了台湾和南京后，我对它们原有的印象改变了。反过来说，我在日本时只能在头脑中构想我对它们的印象，可是对当地人的实际生活的样子却是怎么想象也想象不出来的。就像闭关锁国时代的日本人，以为外国人就是红皮肤的鬼。在现代社会中，网络和智能手机的发达让我们似乎更容易互相交流了，但是我感觉网络的交流得到的只是一连串文字的罗列，并没有达到真正的了解。

我们人类的文化与构成文化的语言是表里一体的。学好一种语言意味着理解语言背后存在的文化和人。很早以前，神为了阻止人类登天的欲望而使人类的语言无法互通。从那时起，我们就生活在巴别塔坍塌的世界里。语言不通就意味着想法无法相互交流。但是神奇的是，人类似乎具有超越语言的共感能力。比如都渴望世界和平、希望自己和周围人幸福，看到美丽的事物会感动，爱会带来温暖的震撼，还有迎接每一个新的早晨的喜悦……说“中国人是这样的”或“日本人是那样的”很容易，但是在这样区别之前，我们能不能首先作为人类、互相尊重呢？如果每个人都能看到别人是和自己相同的人，那么世界将更加和平。而做到这一点的关键，正在于理解语言，形成交流。

全球化是当今不可否认的世界潮流。现在，在东京大学的学生中中国留学生约占 15%。但是，即使是日本学生之间也很少有深入交流的机会，何况跟留学生们呢？从这个意义上讲，我觉得由 TLP 老师组织的汉语角和演讲等活动是非常宝贵的好机会。

同学们，你们还记得两年前的四月，教育学院的院长在我们的入学典礼上对我们说过，在大学学习的意义是“获得用自己的语言解释自己感兴趣的内容的能力”这句话吗？今天我们迎来了前期 TLP 的结业，我想设定一个新的目标：能够用中文表达自己感兴趣的事。

我们所谓的开始通常是结束。

而结束就是开始。
终点正是我们出发的地方。(T. S. Eliot)

在此，我要衷心感谢在过去两年中遇到积极进取的同学们、热切关注着我们成长的老师们、以及为进一步发展 TLP 而努力工作的每一个人。谢谢你们。

来賓の方々、先生方、同級生の皆さん、こんばんは。川瀬翔子と申します。本日は、ここ TLP 修了式の場にてスピーチをさせていただけることとなり、大変嬉しく思っております。

私たちは、1 年生の 4 月に入学して以来、非常に密度の濃い中国語の授業を受けてきました。中国語母語話者の先生方だけでなく、日本人でありながら正真正銘の「中国通」である先生方から、言葉についての知識だけでなく中国語とその背景にある中国文化について学びを得る日々は、(時々訪れる期末試験を別にして) 毎日が楽しいものの連続でした。

今日は、私が TLP プログラムに参加させていただいて得た学びについてお話させていただきます。最初は抽象的な話になってしまうのですが、まずは第二外国語を大学で学ぶことの意義について考えてみたいと思います。

なぜ、語学専門の大学でもないここ東大で、第二外国語が必修なのでしょう。その答えは、私たち人間の本質、社会性動物であるということに隠されていると思います。確かに、言語はコミュニケーションのための一つ的手段にしかすぎません。しかし、逆に言うと、言語がなければ人間同士のコミュニケーションは成り立ちません。「人」という字は、二人の人間が支え合っている様子を表しているといえます。学校に来て友達と話す、その内容がいかに些細な、重要性の低いものであったとしても、その一瞬の会話だけで一日の残りの時間を幸せな気分でも過ごせることがあります。また逆に、たった一言、心無い言葉を投げかけられただけでその後数日間気分が落ち込むこともあるでしょう。言葉を介した人と人とのつながりがこの社会のすべてであり、そのつながりにはお金に換えられない価値があると私は信じています。

先日友人と、どうしたら戦争はなくなるのか、という議論をしました。その時出た結論は、世界中の人が「相手のことを同じ人間として見」て、「その人がどんな生活をしているのかを考える」ことができるようになれば平和な世界になるのではないかと、いうものでした。こう書いてみると、至極当たり前のことです。しかし、この当たり前のことを自分ではできているだろうかと振り返ってみると、そうではないということがよくわかりました。例えば、昨年春の台湾研修や夏の南京研修に参加させていただき、台湾や南京の方たちの生活を肌で感じて初めて、それまで知識として想像の中にしかなかった「台湾」や「南京」が生き生きとした現実の世界として感じられるようになりました。台湾で特に印象的だったのは、町の中の緑の多さです。アパートのベランダから通りに面した一軒家の玄関前まで、いたるところにプランターが置いてあり、様々な植物が豊かに育てられていました。また、南京では、川べりの公園に夜遅くまで人々が集まって、散歩をしたり二胡や笛を演奏したりカラオケやダンスをしたり、朝は朝で筋トレやジョギングをする人がいたり。そこには、現在の日本ではなかなか見られなくなった、人々の緩やかな交流の場がありました。もっとも、中国でも最近では若者や働き盛りの年代などがそのような場に顔を出すことはあまりなく、この伝統が今後も引き継がれていくものかどうかは不透明です。しかし、日本では感じることの少ないコミュニティとしての強さを感じることができました。このように、現地を訪れて初めて感じたことが多々あります。逆に言えば、それまでは自分の中で作り上げたイメージによってのみ頭でっかちと考えていて、実際の人々の生活がどうであるかについて思いが及ばなかったといえます。それこそ、鎖国時代の日本の人々が、異人さんは赤い鬼だと思っていたようなものです。SNS が発達し、相互に情報がやり取りできる状況になったはずなのに、それが単なる文字の羅列で終わってしまっていて本当の意味での理解につながっていなかったということを感じました。

われわれ人間の文化は、その文化を形作ってきた言語と表裏一体です。一つの言語を話せるようになることは、その背後にある文化や話者を理解することと同義といってよいでしょう。かつて神は、言語を分かたつことによって天を目指したいという人間の欲望を封印しました。それ以来、私たちは「バベルの塔」が崩壊した世界を生きてきました。言語が通じないということはすなわち考えが互いに伝えられないということです。しかし、不思議なことに人間は言語を超えた共感の力を持つようです。世界平和の願い、幸せを求める心、美しいものに感動し愛に心震わせ新しい朝を迎える喜び…。「中国の人は」とか「日本人は」という風に一口にくくるのは簡単ですが、それ以前に人間として互いを尊重することができたら。一

人一人が互いを同じ人間として見ることができれば、世界は今より平和になるはずです。そして、言葉が理解できるかどうか、コミュニケーションが図れるかどうかはそのカギとなるでしょう。

グローバル化は今や否定のできない世界的潮流といえます。現に、中国からの留学生は東大の学生全体の15%を占めます。しかし、日本人の学生同士でさえ、互いに考えを交わす機会はそう多くありません。ましてや留学生とは…？そういった意味で、TLPの先生方が企画してくださる交流イベントやしゃべランチは非常に大切な機会だということを感じます。

同級生の皆さん、大学で学ぶ意義は「自分が興味のあることについて、自分の言葉で説明できる力を身に着ける」ことだ、という言葉覚えていらっしゃるでしょうか。二年前の4月、私たちの入学式で教育学部長が述べておられた祝辞の中の言葉です。TLPプログラムが終了を迎える今、私は「中国語で、自分の興味関心を分かりやすく伝えられるようになること」を新たな目標としたいと思っています。

私たちが始まりと呼ぶものは、実は終わりであることもある。

そして終えることは始めることでもある。

最終地点とは出発点である。

What we call the beginning is often the end.

And to make an end is to make a beginning.

The end is where we start from.

(T. S. Eliot)

2年間の間に巡り合った志の高い仲間たち、いつも優しく温かく私たちの成長を見守ってくださった先生方、TLPプログラムのさらなる発展のために尽力してくださったすべての皆さまに心より感謝申し上げます。結びの言葉とさせていただきます。

川瀬 翔子

ドイツ語

Yuichiro Nakagiri

Liebe Gäste,
liebe Professorinnen und Professoren
und liebe TLP-Studenten,

ich bedanke mich herzlich bei Ihnen dafür, dass Sie heute alle gekommen sind. Ich freue mich sehr, diesen erfreulichen Tag mit Ihnen feiern zu können.

Zuallererst möchte ich den Lehrkräften der deutschen Abteilung und des CGCS für Ihre Unterstützung bei den TLP-Deutschkursen und dem DAAD für die Förderung der Sommer- und Winterschule danken. Besonders bedanke ich mich recht herzlich bei Frau Ishihara, Herrn Klink, Frau Kaufmann und Herrn Oishi für die ausgesprochen guten und interessanten TLP-Deutschkurse, und bei Herrn Hiramatsu für die Leitung der Sommer- und Winterschule. Zudem möchte ich meinen Freundinnen und Freunden besten Dank aussprechen. Ohne Kameraden, die ein gemeinsames Interesse haben und sich anstrengen, hätte ich im TLP-Kurs nicht so viel lernen können.

Wir haben bei unserem TLP-Kurs dreimal pro Woche Deutsch gelernt. Besonders eindrucksvoll war, dass wir bei den Hörübungen im Unterricht verschiedene deutsche Dialekte gehört haben. Manche Dialekte wie Schweizerdeutsch klingen wie eine ganz andere Sprache, und ich habe es interessant gefunden, dass jeder Dialekt seine eigene Melodie hat. Außerdem haben wir den Film *Mein Nachbar Totoro* auf Deutsch gesehen. Und wenn wir nach Hause gegangen sind, haben wir oft zueinander „Tschüss!“ gesagt, was Herr Klink zum Schluss des Unterrichts immer gesagt hat. So hatten wir weitere Möglichkeiten, mit Deutsch in Kontakt zu kommen. Deshalb haben wir uns immer mehr für Deutsch interessiert und uns allmählich verbessert. Bei den Sprechübungen mussten wir anfangs immer in unsere Wörterbücher schauen, und wir haben oft in der Mitte einer Konversation angefangen zu schweigen, weil uns nicht der passende Ausdruck eingefallen ist. Aber irgendwann konnten wir zu einem gewissen Grad Unterhaltungen miteinander führen. Unterdessen haben wir im Unterricht auch Reden z.B. über die Erlebnisse während der Ferien gehalten. Als ich mit dem Deutschlernen angefangen habe, habe ich mir gar nicht vorstellen können, vor anderen Leuten Deutsch zu sprechen. Deshalb habe ich großes Selbstvertrauen dazu gewonnen, als ich realisiert habe, dass ich schon kurze Präsentationen halten kann.

Mit der Zeit haben wir auch landeskundliche Kenntnisse von den meisten deutschsprachigen Gebieten dazu gewonnen. Die Lehrerinnen und Lehrer haben uns von der Literatur, der Musik, der Geschichte, dem Essen oder dem alltäglichen Leben dort erzählt. Beispielsweise haben wir die Erzählung über den Ursprung des Liedes *Loreley* gehört. Außerdem konnten wir bei der Weihnachtsfeier mit Frau Kaufmanns schmackhaften Speisen wie Zwiebelkuchen und den Rätseln mit deutschen Weihnachtsliedern die deutsche Kultur hautnah erleben. Je mehr ich über die deutsche Sprache und Kultur gelernt habe, desto lieber mochte ich es, Deutsch zu lernen.

Und besonders gerne erinnere ich mich an die Winterschule in Köln. Ich werde es niemals vergessen, wie ich mich gefühlt habe, als ich am ersten Tag den riesengroßen Kölner Dom in der Nähe gesehen habe. Der Unterricht dort war noch schwieriger als der TLP-Kurs, und ich konnte mich noch mehr motivieren, Deutsch zu lernen. Am Mittag habe ich mich mit den anderen Studenten im Kurs, die aus verschiedenen Ländern kamen, unterhalten. Wir haben z.B. über das Leben in unseren Heimatländern geredet. Und beim Einkaufen habe ich mein Deutsch anwenden und dabei Alltagssituationen erleben können. Köln hat auch seinen eigenen Dialekt, und es war für mich ein bisschen schwer, ihn zu verstehen, aber deswegen habe ich mich besonders gefreut, wenn ich Konversationen auf Deutsch führen konnte. Aufgrund der Erlebnisse in Köln denke ich, dass Deutsch uns ein neues Fenster zur Welt geboten hat. Ich hoffe, dass ich auch in Zukunft so viel Zeit wie möglich mit Deutsch verbringen und durch dieses Fenster neue Dinge erblicken kann.

Schließlich wünsche ich allen TLP-Studenten alles Gute für die Zukunft und freue mich darauf, wenn wir uns wiedersehen.

Vielen Dank für Ihre Aufmerksamkeit!

来場者の皆様、
先生方、
そして、TLP 修了生の皆様

本日はお越しくださり、本当にありがとうございます。この良き日を、皆様とともにお祝いできることを大変うれしく思います。

まず初めに、TLP ドイツ語のプログラムを支えてくださったドイツ語部会の先生方や駒場グローバルコミュニケーションセンター（CGCS）の先生方、そして夏季研修・冬季研修を支援してくださったドイツ学術交流会（DAAD）の皆様にご感謝申し上げます。とくに、TLP ドイツ語の授業を受け持て下さった石原先生、クリンク先生、カウフマン先生、大石先生、夏季研修・冬季研修の引率をして下さった平松先生、本当にありがとうございました。そして、共にドイツ語を学んだ友人たちに感謝したいと思います。同じ興味を持って努力する仲間がいたからこそ、この TLP の授業から多くのことを学べたのだと思います。

さて、私たちは週 3 回の TLP の授業を通じてドイツ語を学んできました。特に記憶に残っているのは、リスニングの練習でドイツ語のさまざまな方言を聞いたことです。スイス・ドイツ語など、中には全く別な言語のように聞こえるものもあり、それぞれ味のある響きを出しているのが面白く感じました。他にも、『となりのトトロ』の映画をドイツ語で見たり、クリンク先生が授業の最後に必ず言っていた「Tschüss!」（「またね」「バイバイ」の意味）を帰り際に学生同士でも言い合ったりと、いろいろな形でドイツ語に触れていくうちに、徐々にドイツ語に興味湧き、ドイツ語の能力も上達していきました。例えば、会話の練習では、最初は辞書が手放せず、表現が思いつかないために話している途中で沈黙してしまうことも多かったのですが、いつしかクラスメイト同士である程度自然にできるようになりました。また、休暇中の経験などについて、授業の中で発表をすることもありました。ドイツ語を習い始めた時点では、人前で話ができるようになるとは思っていなかったのですが、少しではあっても発表ができたということは、大きな自信になりました。

それと並行して、TLP ではドイツ語圏の各地域の「ランデスクンデ」（ある地域の風土や歴史、社会、習俗などを含んだ概念）も学びました。先生方は、各地域の文学や音楽、歴史、料理、そして日常生活について話して下さいました。たとえば、歌曲『ローレライ』の成り立ちに関するお話などがありました。さらに、クリスマスパーティーでは、カウフマン先生の Zwiebelkuchen などの美味しい料理をいただいたり、ドイツのクリスマスソングにまつわるクイズを解いたりして、ドイツ文化を肌で感じることができました。ドイツ語とドイツ文化を学べば学ぶほど、ドイツ語学習が好きになりました。

そして特に、ケルンでの冬季ドイツ語研修は印象的でした。研修初日に、ケルン大聖堂を間近で目にしたときの感動は忘れられません。研修で受けた授業は TLP の授業よりさらに難しく、ドイツ語学習のモチベーションを高めることができました。昼休みには、同じ授業を受けていた他の国々の学生と、それぞれの出身の国での生活に関する話などをしました。また、買い物の際には、実際にドイツ語を使ってみることで、生のドイツ語に触れることができました。ケルンにも方言があり、聞き取るのに若干苦勞しましたが、だからこそ通じ合ったときの喜びはひとしおでした。ケルンでの経験を通じて、ドイツ語は世界につながる新たな窓を開いてくれるのだと思いました。これからも、ドイツ語と触れる時間を少しでも多く取り、この窓を通じて新たな出会いをすることができればと思います。

それでは、TLP 修了生の皆さんの今後の成功をお祈りし、再びこの仲間で会える日を楽しみにしつつ、スピーチを終えようと思います。

最後までお聞きくださり、ありがとうございました。

フランス語

Bonsoir à toutes et à tous. Je m'appelle Taiga Someya. C'est un honneur pour moi d'être ici devant vous pour faire un discours en tant que représentant des étudiants du TLP français en ce jour mémorable de la cérémonie de fin du TLP. J'ai passé un moment très stimulant et profitable, en étudiant intensivement le français avec de merveilleux camarades et de fantastiques professeurs. Le programme du TLP m'a beaucoup influencé, en ce sens qu'il a changé mon attitude à l'égard de l'apprentissage des langues. Aujourd'hui, je vais vous parler de cela.

Comme tout le monde ici présent le sait bien, le TLP est un programme qui nous aide pour l'apprentissage d'une autre langue que le japonais et l'anglais. Mais qu'est-ce que c'est qu'« apprendre une langue » ? Est-ce qu'il s'agit de « savoir communiquer dans cette langue avec d'autres personnes malgré certaines difficultés », de « savoir lire dans cette langue » ou alors de « savoir parler et lire comme des locuteurs natifs » ? Il y aurait définition et définition.

Évidemment, je savais bien que l'essence des langues consiste dans la communication orale, vu qu'il y a beaucoup de langues qui ont une forme parlée mais pas de forme écrite. Néanmoins, j'ai toujours insisté surtout sur la lecture avec la compréhension précise de la grammaire ou du vocabulaire, quant à l'apprentissage des langues, si bien que j'arrive à comprendre d'une façon complète ce que certains auteurs ont vraiment voulu dire. Il me semble que c'était en partie parce qu'auparavant j'étais un peu perfectionniste et que je voudrais capter toutes les petites nuances subtiles lorsque j'apprends une langue. En conséquence, je n'ai pas investi beaucoup de temps dans la production orale et franchement je n'aimais pas trop les classes du TLP où on se parle beaucoup en français.

Finalement, le programme du TLP, ou plus précisément les professeurs du TLP, m'ont fait de nouveau ouvrir les yeux sur le côté communicatif des langues. En effet, certains professeurs m'ont toujours encouragé à parler et à pratiquer le français, et les deux stages en France ont stimulé mon désir de parler comme les locuteurs natifs. À mon avis, c'est pour cela que je suis moins stressé à parler en français qu'auparavant, et que je suis arrivé à un niveau assez avancé en seulement un an et demi. Du plus, le français m'a donné beaucoup d'opportunités de rencontrer des gens que je n'aurais pas pu rencontrer sans lui.

J'ai juste commencé à prendre le chemin de la maîtrise du français, mais il m'a déjà apporté tant de choses. À mon sens, les langues sont plus qu'un outil pour tracer sa route dans le monde globalisé, et elles sont aussi ce qui rend ma vie plus stimulante et plus riche. Je vais continuer d'étudier d'autres langues, tout en perfectionnant mon français, et je vais aussi découvrir beaucoup de choses à travers l'apprentissage de différentes langues.

Je voudrais finir par remercier tous mes camarades et également les professeurs du TLP qui nous ont toujours apporté leur aide dans notre apprentissage du français.

Merci de votre attention.

Taiga Someya

皆さんこんばんは。染谷大河と申します。TLP 修了式という記念すべき日に、このように皆さんの前でお話ができること、大変光栄に思います。素晴らしい仲間や先生に囲まれてフランス語を集中的に学んだ日々は、非常に刺激的で有意義なものでした。特に、言語習得に対する考え方に変化をもたらしてくれたという点で、TLP は私に大きな影響を与えてくれました。本日はこのことについて話してみたいと思います。

TLP は皆さんご存知の通り、日本語と英語に加えてもう一つの言語を習得する手助けをするプログラムになっています。しかし、そもそも“言語を習得した”というのはどのような状態を指しているのでしょうか。“多少間違っていてでもコミュニケーションが取れること”でしょうか、それとも“その言語で本が読めること”でしょうか。はたまた、“ネイティブスピーカーのように話すことができる”ということでしょうか。人によって定義は異なるはずです。

もちろん、話し言葉はありながら書き言葉は持たない言語もあることなどから、言語の本質はむしろ“オーラルコミュニケーション”にあることは重々承知してはいました。しかし現在に至るまで、私は言語習得に際しテキストを重視し、それを書き記した人が伝えたかったことを、文法などの十分な知識を持って完全に理解することを第一の目標としてきました。私がいわゆる完璧主義者のような一面があったことや、言語を学ぶからには細かなニュアンスまで理解できるようになりたいとおもったことが主な理由だったのでしょう。従って、今まで話すということにあまりフォーカスしてきておらず、授業内で盛んに会話をする TLP の授業などは、正直なところ当初あまり気乗りしないところもありました。

そんな中で、TLP のプログラム、もっと言うと TLP を担当した先生方は、今一度言語を通して伝達することの大切さに気づかせてくれ、また言語習得の新たな側面への道を開いてくれました。実際、常に先生方はフランス語を話す練習をするように促してきてくれましたし、二回のフランス研修を通して母語話者のようにフランス語を話したいという思いも増しました。結果として、今は以前よりフランス語で話すことに抵抗がなくなってきたように思いますし、また約一年半という短い期間の中で、ある程度のレベルに到達できたのもこのためであろうかとおもっています。それに加えて、フランス語を学んだことによって、それがなければ出会わなかったであろう人に会うこともできました。

フランス語習得への道はまだ始まったばかりではありますが、このようにフランス語はすでに多くのものを私にもたらしけてくれました。言語というものは単にグローバル化社会を生き抜くためのツールというだけでなく、私の人生をより刺激的で豊かなものにしてくれるもののように思います。これからも楽しみながらフランス語を含め諸外国語を学び、自分の世界を広げていきたいと考えています。

最後になりますが、お世話になった先生方、TLP の仲間に感謝申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。

染谷大河

ロシア語

Здравствуйте, меня зовут Ёко Комура. Сейчас я учусь на втором курсе на юридическом факультете.

Я в первый раз почувствовала интерес к России, когда прочитала «Воскресение» Льва Толстого в младшей школе. Мне захотелось узнать, какая страна могла породить такого великого писателя и такой грандиозный роман. С тех пор я много думала о том, что хочу когда-нибудь изучать русский язык и русскую культуру, литературу, искусство и музыку по-русски. Занятия ТЛП предоставили мне прекрасную возможность это сделать.

Я думаю, что одна из главных особенностей программы ТЛП в том, что студенты могут именно учиться по-русски, а не только учить русский язык. На занятиях мы использовали материалы по-русски, и преподаватель обучала нас по-русски. Сначала я беспокоилась, но не прошло и месяца, как я стала думать, что это очень эффективный план. Он помог мне улучшить способность к разговору и написанию сочинений. Мы также смотрели фильмы, например, «Питер ФМ» и «Мелодии белой ночи» и слушали русские песни.

Знакомство со студентами с разных факультетов также было важной частью курса ТЛП для меня. В группе ТЛП много студентов, с которыми я не могу встретиться на других занятиях. Через общение с ними я смогла поддерживать высокую мотивацию для изучения русского языка и расширить свой кругозор.

Мы также смогли усовершенствовать свои знания в Санкт-Петербурге во время Летней школы, где мы на практике применяли то, чему научились в Токийском университете. В Санкт-Петербургском государственном университете мы слушали лекции по истории России. Несмотря на то, что я уже немного изучала русскую историю, я поняла следующее. Читать историю со времён распада Советского Союза и до современности в книгах – это совсем не то, что слушать преподавателей, которые знают о сложностях этого времени на собственном опыте. Я была рада, что могла понять русских студентов, но вместе с тем реально чувствовала, что мне нужно ещё много изучать русский язык. Кроме занятий, мы также посетили Эрмитаж, увидели памятники писателям и посмотрели балет «Дон Кихот» в Михайловском театре. Это было волнующим событием – пойти в места, которые раньше я видела только на фотографиях.

Для меня изучение иностранного языка – это не только запоминание грамматики и слов, но также попытка узнать историю, культуру и мысли людей. Если я не смогу понять контекст позади слов, то не распознаю их истинное значение. Поэтому несмотря на то, что сегодня техника автоматического перевода прогрессирует, важность изучения иностранных языков не уменьшится!

Я благодарю программу ТЛП за возможность так многогранно изучать русский язык. Спасибо большое преподавателям, организаторам и спонсорам программы!

Спасибо за внимание.

皆さん、こんにちは。小村揚子です。今は二年生で法学部に進学する予定です。

私が初めてロシアに対して興味を抱いたのは小学生の時に「復活」を読んだことがきっかけです。その時、私はこれ程偉大な作家と壮大な物語を生み出したのは如何なる国か、ととても気になりました。そしていつか機会があれば、文学や芸術、音楽などを始めとするロシア文化に、ロシア語で直に触れたいと思いました。TLP クラスはそんな私にとって正に絶好のチャンスでした。

私は、TLP クラスの最大な特徴の一つは、ロシア語を学ぶというより、ロシア語で学ぶことができることだと思います。授業において我々はロシア語で書かれた教科書を使い、先生はロシア語で講義しました。もちろん最初は、ついていけるか不安に思うこともありましたが、一か月もしないうちに、これが自分の会話力や作文力を鍛える最も効率的な学習環境だと感じるようになりました。教科書のみならず、授業中では「ピーチェル FM」や「白夜の調べ」などの映画とロシアの歌謡を通じて「生きた」ロシア語にも触れることができました。

また、文理を超えた仲間ができたことも TLP クラスでの大きな収穫です。TLP クラスでは、学部の授業では決して出会えないような、様々な専門に進みたい学生が集まって来ます。彼らとの交流で私は高いモチベーションを保ち続け、視野も広がったと感じています。

サンクトペテルブルクでの研修は TLP コースの集大成であり、今まで学んできたことの実践の場でもあります。研修中に我々はサンクトペテルブルク国立大学でロシアの歴史についての講義を受けました。ロシア通史について自分は多少知ってはいたが、ソ連崩壊から今日に至るまでの動乱の時代を本で淡々と読むのと、それを実際に経験したロシア人の口から聞くのとは全く違うことだと感じました。また、ロシア人学生との交流では、ロシア語で実際に何とか意思が通じ合ったことを喜びつつも、深い交流のために自分はまだまだ勉強を積み重ねなければならないと痛感しました。そして授業以外の時間では、エルミタージュ美術館や作家記念館の訪問、マリンスキー劇場でのバレエ「ドン・キホーテ」の鑑賞など様々な体験をしました。写真でしか見たことのない場所に実際に足を運べてとても感動しました。

私にとって、一つの言語を学ぶことはただ機械的に文法や単語を暗記することでは決してなく、同時に歴史や文化、人々の思想について理解する試みでもあります。もし言葉の背後にあるものを知らなければ、その単語の意味や用法を正確に理解することはありませんし、だからこそ、機械翻訳技術が日進月歩に進む今日においても、外国語を学ぶことの意義は決して後退しないのだと思います。TLP クラスのお陰で充実した学びができて感謝しています。

最後になりますが、この場をお借りして TLP 委員会の方々、先生方、および支援してくださった皆様に感謝の意を表したいと思います。ご清聴ありがとうございます。

小村揚子

韓国朝鮮語

내빈 여러분, 선생님, TLP 동급생 여러분, 안녕하세요?

저는 가와노 하나입니다. 여러분과 같이 무사히 프로그램을 수료하고 오늘을 맞이할 수 있게 된 것을 기쁘게 생각합니다.

한국어 TLP는 우리 학년이 처음입니다. 왜 인기있는 외국어의 TLP가 아니라 한국어를 선택했나 하면, 제 경우는 단순한 이수 등록 실수였습니다. 원래 제 2 외국어로 스페인어를 신청했지만, TLP 제도에 대해 잘 모르는 채 "왠지 재미있을 것"이라고 생각해서 한국어 TLP를 동시에 냈는데 한국어 반으로 분류되었습니다.

하지만, 제가 이 실수를 한 것을 후회하는 적은 없습니다. 한국어 TLP 반이 좋았기 때문입니다.

우리 반은 다섯 명이었습니다. 이 소규모 클래스에서 편안함을 느꼈고, 친구들과는 대학 생활의 고민까지 상담할 수 있을 정도로 가까워졌습니다. 이 소중한 만남을 매우 기쁘게 생각합니다. 수업 중에는 이문화 체험이 여러 번 있었는데 한국의 전통 의상을 입기도 하고 팔빙수를 만들어 먹고 한국 영화도 감상했습니다. 또, 다 함께 신오쿠보에 한국 요리를 먹으러 가는 등 다양한 체험을 했습니다.

한국어는 언어 자체로도 매우 흥미로웠습니다.

일본어와 공통점이 많아서 이해하기 쉽고 단어와 기본 문형을 익히면 실력 향상을 실감하기 쉬운 언어였습니다. 동시에, 일본어에 가까운 언어이기 때문에 표현 등의 뉘앙스의 차이가 한일의 문화적 차이와 연결되어 있다는 것을 의식할 수 있었고 배울수록 발견이 많은 언어였습니다. 앞으로도 한국어를 공부하고 싶다고 생각합니다.

마지막으로, 함께 공부한 TLP 동기, 신세를 진 모든 선생님들께 감사드립니다. 일 년 반 동안 미흡한 점이 많은 저희들을 지도해 주시고 다양한 기획을 준비해 주신 선생님들께 진심으로 감사드립니다. 이 경험은 앞으로 한국어 뿐만 아니라 다양한 언어와 문화 배경을 갖는 사람들과 만났을 때, 상대와 그 문화를 이해하는 힘이 될 것이라고 생각합니다.

경청해 주셔서 감사합니다

(가와노 하나)

来賓の方、先生方、TLP の同級生の皆さん、こんばんは。川野花です。皆さんとともに無事プログラムを修了し、この日を迎えることができたこと、嬉しく思います。

韓国朝鮮語の TLP は私たちの代が初代となります。なぜ有名どころの TLP ではなく、韓国朝鮮語を選択したのかと言いますと、私の場合は端的に言えば履修ミスでした。もともと第二外国語をスペイン語で申請していたのですが、TLP 制度もよくわからないまま、「なんか面白そう」と思って第三外国語を申請する感覚で韓国朝鮮語の TLP を同時に出したところ、韓国朝鮮語に振り分けられました。

しかし、私がこのミスを後悔したことはありません。それは韓国朝鮮語 TLP が素晴らしいクラスだったからです。

私たちのクラスは 5 人クラスでした。この少人数クラスが出すアットホーム感には居心地の良さを感じました。日頃の悩みまで相談できる仲にまでなり、このような出会いをととても嬉しく思います。また、異文化体験の授業が何回もあり、そこでは韓国の伝統衣装を着たり、パッピンス（韓国のかき氷）を作って食べたり、韓国映画を鑑賞したり、みんなで新大久保に韓国料理を食べに行ったり、様々な貴重な体験をさせていただきました。どれもみんなで共有する、楽しい思い出です。

韓国朝鮮語という言語それ自体も非常に興味深いものでした。日本語との共通性が多く、とても親しみやすく、単語や基本文型を覚えると上達が実感しやすい言語でありました。また同時に、日本語に近い言語だからこそ、言い回しなどのニュアンスの違いが日韓の文化的差異と繋がっていることも意識することができ、学べば学ぶほど発見の多い言語でありました。これからも学んでいきたいと思います。

最後に、共に学んだ TLP の仲間、お世話になった全ての先生方に感謝します。一年半、至らぬところが多かった私たちを指導して、いろいろな企画を用意してくださった先生方には感謝してもしきれません。この経験は、これから韓国朝鮮語に限らず様々な言語や文化の人たちと出会った時に、相手とその文化を理解する力につながると 생각합니다。

ご静聴ありがとうございました。

(川野 花)